

外国語活動

小中連携を図るプロジェクト型外国語活動の単元開発

—「英語による中学校説明会」の実践を通して—

米倉智久

1 問題の所在と研究の目的

2011年度から、小学校5・6年生で全面実施されている外国語活動に関しては、小学生の7割が「英語が好き」「英語の授業が好き」、中学生の8割が「中学校に上がってから、小学校での外国語活動が役に立っている」と回答している。一方で、中学生の8割が「小学校の外国語活動で英単語を『読む』『書く』ことを学習しておきたかった」と回答するなど、小学校高学年で言語活動に対する知的欲求が高まっている状況も指摘されている¹⁾。

そんな中、英語教育の新方針が改訂学習指導要領で示され、2013年12月に「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」が発表された²⁾。2016年度の新学習指導要領改訂により、2020年から小学校5・6年生で小学校英語が教科化され、3・4年生で外国語活動が実施されることになっている。高校だけでなく中学校でも英語の授業は英語で行うことが基本となり、高校卒業段階で生徒が英検2～準1級程度以上の英語力をつけることが目標とされている。

このように、英語教育に関してはトップダウンで現場に下ろされることになり、小学校の教育課程や小学生の発達段階に合わない学習や活動になるおそれがあり、英語を嫌だと感じる子どもが増える危険性が考えられる。また、現在は各学校で「Hi, friends!」をベースに、その学校の子どもの実態に合わせて創意工夫されながら実施されている外国語活動の良さが失われるおそれもある。

現在実施されている小学校外国語活動において

は、第二言語習得という側面からプロジェクト型外国語活動の実践が積み重ねられている。東野はプロジェクト型学習について、「『プロジェクト』とは、児童が課題を見つけ、あるいは与えられ、それに対するゴールを決定し、そのゴールに向けて協同で活動する、まとまりを持った一連の授業の集合体を指す。いわば、『課題解決を行うゴールを持った単元』と解釈してよい。そこでは、原則、児童の興味に基づいた、主体的、創造的、課題解決的な活動が中心となる。」³⁾と述べている。

ところで、筆者の前任校では生徒会による中学校紹介が行われていた。しかし、本学校園ではそのような中学校紹介が行われていない。また、幼小中一貫校ではあるが、各校舎は独立しており、中学校の学校生活を知る機会はほとんどない。

そこで本研究では、英語による中学校説明会を1つのプロジェクトとして単元に設定することで子どもたちの外国語活動に対する関心が高まり、より主体的に学習に取り組むことができるか考察する。また、この単元を実践することによって、子どもたちの中学校生活に対する不安が解消されるか考察することを目的とする。

2 実践事例

(1) 単元の概要

- ①単元名 「Let's go to junior high school」
- ②学級 6年1組 38名
- ③実施時期 2015年11～12月
- ④単元目標

中学校クイズや中学生へのインタビュー活動を通して、教科や学校生活に関する英語表現に慣れ

親しみながら、自分が知りたい情報を簡単な英語で尋ねたり問いかけに答えたりしようとする態度を養うとともに、小中における教科の共通点や違いにも気づくことができるようにする。

⑤単元の評価規準

〔コミュニケーションへの関心・意欲・態度〕先生や中学生が話す英語を注意深く聞いて、相手が伝えたい内容を理解しようとしたり、自分が知りたいことを英語で尋ねようとしたりしている。

〔外国語への慣れ親しみ〕教科や学校生活についての英語を聞き取ったり、簡単な英語を使って自分の考えを伝えたりすることができる。

〔言語や文化に関する気づき〕英語での中学校生活の紹介を聞いて、中学校の時間割や生活時間、教科等の共通点や相違点に気づいている。

⑥単元構成

第1次 附属三原中学校ってどんなところ（2時間）

- ・中学校クイズを通して、中学校の様子を知る。
- ・中学生による中学校紹介の映像を見て、中学校での目標を立てる。

第2次 中学校探検をしてインタビューしてみよう（4時間）

- ・中学生に尋ねてみたいことを考えてインタビューの練習をする。
- ・中学生の案内による中学校探検をして、中学生にインタビューをする。

(2) 単元開発に際して

まず子どもたちに外国語活動に対する意識調査を行った。



図1 外国語活動の意識調査結果

その結果、外国語活動に好意的な回答をした子どもが32名(84%)、外国語活動の学習が中学校の英語学習に役立つと回答した子どもが35名(92%)いた(図1)。

また、外国語活動の中でやってみたいことを自由記述で問うたところ、英語を使って会話やコミュニケーション活動をしたいと思っている子どもが21名(55%)おり、外国の方と会話をしてみたいと思っている子どもが8名(21%)いた。また、単語や文章を書きたいという意欲を持っている子どもも6名(16%)いた。

次に、中学校生活に対する意識調査を実施したところ、図2に示すように子どもたちがもっとも期待していることは「部活動」32名(84%)で、その一方で不安に感じていることは「勉強」31名(82%)、「先生」「先輩」16名(42%)という結果だった。

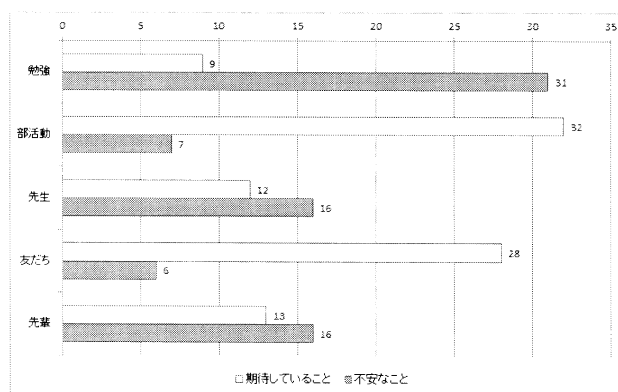


図2 中学校生活に関する意識調査結果

(3) 授業の実際 I <第1次1時>

①本時の目標

教室名や部活動の英語を聞き取ったり、簡単な英語を使って友だちにインタビューしたりする。

②活動の様子

まず、プレゼンテーションソフトで作成した「What's this? クイズ」で、中学校の教室および教科名について知る活動を行った。ここでは、教室に置いてある物の画像を切り取ったりぼかしたり、あるいは拡大したりする加工(図3)をすることで、単純なクイズにならないようにした。

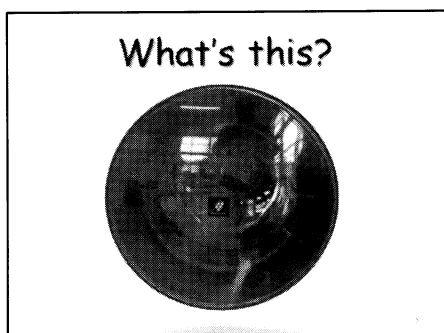


図3 「What's this? クイズ」

また、中学校で新たに出会う教科や小学校とは違う教室を意図的に出題することで、関心を持ちながらクイズに取り組むことができるようにした。具体的には、玄関、保健室、被服室、美術室、技術室、教室の6つであった。子どもたちは、教室にピアノがあることに驚きの反応を示していた。また、技術室にある工具にも関心を示していた。

次に、「中学校の校舎 MAP を作ろう」という activity を設定し、T1 と T2 による英語でのやり取りを聞きながら校舎 MAP を完成させていった。今回、T1 は筆者が、T2 は中学校の英語教員が行った。全体の進行や子どもたちにとっての発話のモデルを T1 が担当し、ネイティブな発音や中学校のことを説明する役割を T2 が担当した。ここでは、聞き取った教室名の英語を書き写すというタスクを設定し、音声だけでなく文字にも慣れ親しませる活動を仕組んだ(図4)。

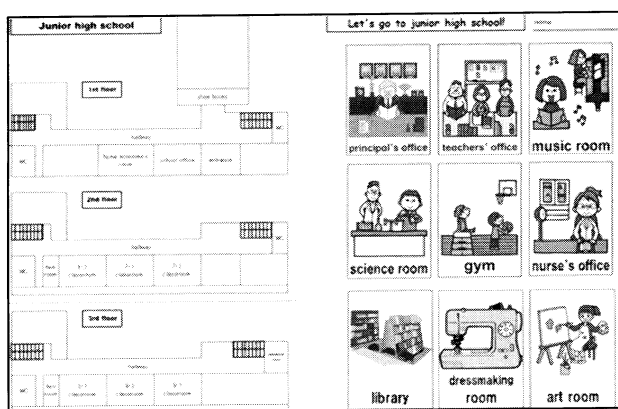


図4 校舎 MAP を作ろう

ほとんどの子どもが、聞き取った教室名の単語を理解して、ワークシートに書き写すことができ

ていた。また、聞き取れなかった子どももペアの子どもに確認をして、書き写すことができた。

最後に、「入りたい部活動ランキングを作ろう」という activity を設定し、インタビュー活動を通して友だちと英語でコミュニケーションをとる場面を仕組んだ。使用する英語表現は以下の通りである。

What club do you want to join?

I want to join soccer club.

子どもたちは、英語を使って友だちの入りたい部活動を尋ねたり自分の入りたい部活動を答えたりしながら、インタビューシートに友だちの名前を記入していった。短い時間であったが、意欲的に活動することができた(図5)。



図5 インタビュー活動の様子

子どもたちが書いた振り返りを以下に示す。

【A児】 中学校教室の位置が分かったと同時に英語で何ていうか、発音の仕方も分かった。クラブで「やりたい」みたいなことは want を使っているということに気づけた。少し長い単語も日本語では短い言葉が多いと気づいた。

【B児】 陸上クラブだと「track & field」と「アンド」がつくクラブや「バレーボール」でも発音が少し違ったりすることが分かりました。

目標に沿った振り返りだけでなく、英語と日本語との違いにも言及している。

(4) 授業の実際Ⅱ <第1次2時>

①本時の目標

中学校の教科や学校生活を知り、英語を使って中学校でやってみたいことを伝え合う。

②活動の様子

まず、「中学校の時間割を完成させよう」という activity を設定し、T1 と T2 による英語でのやり取りを聞きながら時間割を完成させていった。第1次1時同様、聞き取った教科名の英語を書き写すというタスクを設定し、音声だけでなく文字にも慣れ親しませる活動を仕組んだ(図6)。

Mission: Let's listen and complete the timetable!

7-2	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
1 st		math	science	social studies	
2 nd		Japanese	nozomi	math	English
3 rd	English		math	P.E.	science
4 th	math	science	English		music
5 th	Japanese	moral studies		social studies	Japanese
6 th	P.E.	fine arts	Japanese	nozomi	

What do they study in the first period on Monday?

図6 中学校の時間割を作ろう

時間割の完成後、それをもとに中学校の先生を紹介して(図7)、中学校の学習に関心を持たせた。ここでは、T2 が3名の先生を英語で紹介し、子どもたちが分からないような言葉は、T1 が具体的な事例を出して英語で補足説明をした。



図7 T2による中学校の先生紹介

次に、中学生による部活動紹介のVTRを視聴した。これは事前に中学校の英語教員に依頼をして、部活動ごとに30秒程度の紹介を中学校の子どもたちにしてもらった。彼らが話した主な内容は次のとおりである。

This is the basketball club.
 We have 30 members in this club.
 We play it every day.
 On weekends, sometimes we have basketball games.
 We won first prize in the summer basketball game.
 Basketball is very fun.
 Please join us and let's play it together.

まず、1つめの部活動紹介を視聴し、どんなことを話していたのか確認をして、「Please watch and listen carefully about 2 points. 1st, how many members? 2nd, when do they do?」と伝え、「人数」「活動日」いう2つの項目に注意を払いながら、残り10の部活動紹介を視聴させた。紹介VTRの合間には、T2が子どもたちに英語で簡単な質問をして、紹介内容の共通理解を図った。

最後に、インタビューゲームを行い、中学校でやってみたいことについて友だちと英語でコミュニケーションをとる場面を仕組んだ。使用する英語表現は以下の通りである。

What do you want to do in junior high school?
 I want to study math and I want to play (join) soccer club.

子どもたちは、前時までに慣れ親しんできた教科名や部活動の英語を使って中学校での目標を尋ねたり答えたりしながら、インタビューシートに友だちの名前と教科名、部活動を記入していった(図8)。



図8 インタビュー活動の様子

子どもたちが書いた振り返りを以下に示す。

- 【C児】 友だちの好きな科目やクラブが分かったし、どう対応して答えるのかということも分かった。私も中学生の人たちのように、英語でスラスラ言えるようになりたいです。
- 【D児】 すべて英語でインタビューできたので、次回からも続けていきたいと思いました。入りたいクラブのことについて、とても分かったのが良かったです。
- 【E児】 ビデオを見て、どのようなことをしているのか、人数や活動日をしっかりと聞くことで、どんなクラブなのかくわしく知ることができました。

部活動紹介のビデオを見た振り返りでは、視聴するポイントに沿った振り返りだけでなく、中学生に対する憧れもあった。

(5) 授業の実際Ⅲ <第2次1～2時>

①本時の目標

中学生にインタビューしてみたいことを考えて、グループで話し合いながらまとめる。

②活動の様子

まず、思考ツールの1つであるYチャートを使って、「study」「club」「other」の3項目について、中学生にインタビューしてみたいことを個人で考えた。次に、本当に質問したい内容に焦点化するためにグループで検討する時間を設け、各項目で必ず聞いてみたいことを1つに絞る話し

合い活動を行った。最後に、グループごとに絞った内容を発表し、情報の共有化を図った(図9)。

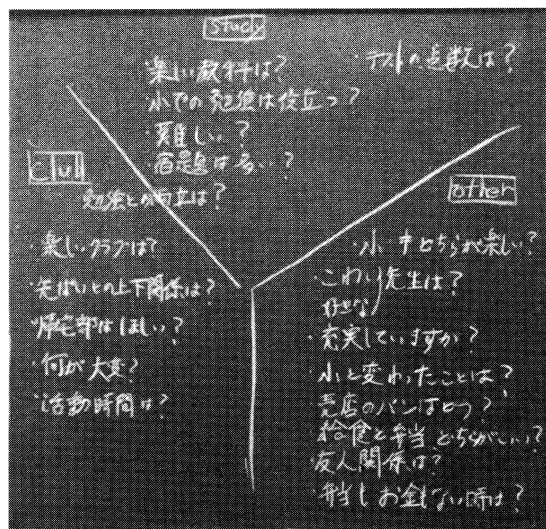


図9 Yチャートによる質問内容の整理

グループで考えた質問内容は、和英辞典やiPadを用いたオンライン辞書で英語に変換し、自分たちでインタビュー練習に取り組んだ。

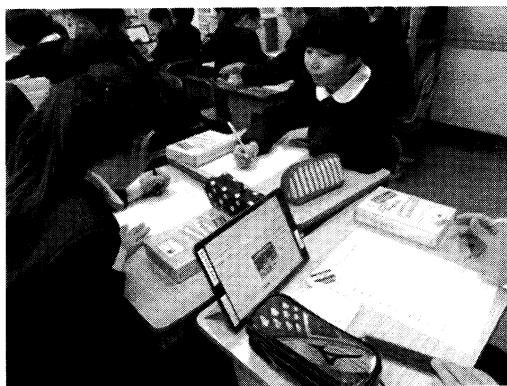


図10 iPadを使って調べる

子どもたちの振り返りを以下に示す。

- 【F児】 勉強、クラブ、その他の質問を友だちと交流することで、いろんな見方が知れたり考えたりできました。
- 【G児】 中学生さんに勉強やクラブのことでたくさん聞きたいことが見つかったので、自分で調べてみたりして、考えたことを言えるようになりたいです。

【H児】 中学校に早く行きたいと思った。
【I児】 単語だけを並べるのではなく、順番のきまりがあるのが難しいと思いました。だから、英文を書くときのきまりや単語の意味を知りたいです。

3 考察

中学生とのインタビュー活動の準備までを本稿で紹介したが、開発した単元の効果を子どもたちの活動の様子や振り返りカードから考察する。

第1次では、クイズやT1とT2のやり取りを通して、知っているようで知らなかった附属三原中学校の教室や先生、時間割、部活動などについて知る活動を行った。特に部活動紹介のビデオレターを視聴する子どもたちの表情は和やかで、昨年度まで同じ校舎の同じ階で過ごした先輩との再会を喜んでいるようだった。おそらく、単元を始める前に抱いていた不安の一部は解消されたと考える。また、中学校の時間割と先生を知る活動の中で、小学校所属の先生が中学校でも教えられていることを知り、授業に関しても不安を解消することができたと考えられる。

第2次では、中学生による校舎案内とインタビューを行うために、事前に質問したいことを考えた。英語でインタビューをするというタスクを与え、iPadや和英辞典を駆使して班の友だちと協力しながら英訳する姿が見られた。オンライン辞書による英訳が効果的だったようで、子どもたちはたくさんの質問を準備することができ、英語に対する不安が解消されただけでなく、関心も高まったのではないかと考える。

4 成果と展望

本研究では、「英語による中学校説明会」というプロジェクトを外国語活動の1つの単元として開発した。考察でも述べたが、本実践によって子どもたちの中学校生活への関心が高まり、それま

で抱いていた不安の一部が解消されたと考えられる。また、部活動紹介での中学生の英語を視聴して、「自分も中学生さんのように英語が話せるようになりたい。」という憧れをもつと同時に外国語に対する関心も高まった。外国語活動から英語科へ、学習面に関するなだらかな接続が期待できる実践となった。また、生活面においても、昨年度まで小学生だった7年生の生き生きとした姿に接することで、頼りになる先輩という存在として子どもたちの心に残った。

今後も本単元を実践していくためには、これらの活動が小学生だけのものではなく中学生にとっても意味のあるものでなければならない。そのため、7年生の年間カリキュラムの中にも、本単元を位置づけていく必要がある。また、小中間の日程調整が欠かせない。特に、ビデオレターや実際のインタビュー活動を行う場合には、撮影や場所の確保など事前の準備を計画的に実施する必要がある。そのため、日頃より小中の担当教員間で情報交換を密にとっていくことが今後の課題である。

<参考文献および引用文献>

- 1) 文部科学省：「これからの外国語教育の在り方」, 初等教育資料, 平成27年8月号, p. 3, 2015, 東洋館出版社.
- 2) 文部科学省：「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」, 2013.
- 3) 東野裕子：「小・中学校の9年間を視野に入れたプロジェクト型外国語活動」, 英語教育, Vol. 60, p. 19, 2011, 大修館書店.